

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-134	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Role of alcohol drinking pattern in type 2 diabetes in Japanese men: the Toranomon Hospital Health Management Center Study 11 (TOPICS 11). 日本人男性における 2 型糖尿病への飲酒パターンの役割: 虎の門病院健康管理センター研究 11 (TOPICS 11)		
執筆者		
Heianza Y, Arase Y, Saito K, Tsuji H, Fujihara K, Hsieh SD, Kodama S, Shimano H, Yamada N, Hara S, Sone H.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2013 Mar;97(3):561-8.		
キーワード		
糖尿病、飲酒パターン		
要 旨		
目的: 糖尿病に対する飲酒パターンの影響についての知見は一定していない。本研究では、糖尿病発症への飲酒頻度と飲酒量の影響を検討する。		
方法: 糖尿病のない日本人男性 1650 人を対象とした (糖尿病は空腹時血糖 7.0mmol/L 以上、HbA1c6.5%以上、または医師の診断した糖尿病)。ベースライン調査にて平均飲酒量、飲酒頻度と 1 回飲酒量の 12 種類の組み合わせを調査した。糖尿病発症の絶対危険とハザード比を算出した。		
結果: 平均 10.2 年の追跡期間に 216 人が糖尿病を発症した。生涯非飲酒者 (153 人) での発症率は低く (1000 人年対 9.1)、適量飲酒者も低かった (週 99-160g エタノール、1000 人年対 9.0)。1 回飲酒量が多くなるほど、飲酒頻度にかかわらず、糖尿病発症リスクは上昇した。週 6 回以上飲酒し、1 回飲酒量が 23g エタノール未満の人が、最も発症率が低かった (1000 人年対 8.5)。1 回飲酒量が 69g 以上の問題飲酒の人は、飲酒頻度に関わらず発症リスクが高かった (23g 未満にくらべハザード比 1.79, 95%CI 1.17-2.74)。		
結論: 習慣飲酒者では、週 6 回以上で 1 回 23g 未満が糖尿病発症リスクが最も低かった。日本人男性においては、1 回飲酒量が飲酒頻度よりも重要な糖尿病発症に関する予測因子であった。		